

伝説のアテネ、世界一過酷な公認マラソンコースへ

会員 大瀧 雅一

わたしが代表を務める大瀧ホームインテリアは、栃木県真岡に本社を置く家具の店舗及び輸入商社です。創業は大正8年に宮大工からはじまり、106年の社歴を歩んでいます。

2019年にギリシャの高品質マットレス COCO-MAT 日本総代理店となり、以来ギリシャとの深いお付き合いがはじまりました。

COCO-MAT は毎年アテネマラソンに参加しており、今年も50人を超えるメンバーが参加しました。私個人は、過去に10キロを2回、フルマラソンを2回参加させていただいております。フルマラソンのコースは、マラソン発祥の地マラトンからスタートして第一回近代オリンピック開催会場パナシナイコ・スタジアムにゴールするまでの雰囲気をご紹介します。

伝説のマラトンへ

午前5時、まだ夜の帳が下りるアテネ市内。私はアテネ国立庭園の前に並ぶバスの一列にいた。目指すは42.195キロ先にある「マラトン村」。今年で2回目のフルマラソンへの挑戦になるが、緊張感是不変わる。古代から続く伝説の道を走るのだから。マラトン村に着くと大雨で、11月ということもあり、さすがに冷えました。待機地点のスタジアムに到着して身体を温めはじめる。毎年の準備だ。世界中から集まったランナーたちはそれぞれが緊張感を抱き、あるいはスタート前の熱気で満ちており、お祭り騒ぎ。前回の経験があってもフルマラソンはいつだって初舞台のようなもの。ゴールが見えるまでは辿り着けるかわからない。「準備はいいか、勇者達！？」響き渡るビート、DJが



スタートのランナーをあおるように叫ぶ。高鳴る鼓動！目指すはパナシナイコ、勝利の殿堂だ！歴史を刻むのは、他の誰でもない、君たち自身だ！42.195キロの旅路、Are you ready? 3... 2... 1... GO!! 号砲と共に、私たちはゴールを目指してゆっくりと走り出した。

試練の「上り坂」

アテネマラソンは「世界一過酷な公認コース」と言われている。それは序盤こそ平坦な地中海沿いの風景を楽しめるのだが、10キロを過ぎたあたりから、景色は一変する。延々と31キロ地点まで続く緩く長い上り坂だ。少しずつ少しずつ、疲労が足に蓄積される。上り坂なのに平地と同じペースで走ろうとしてしまうのだ。僅かだが筋肉には無理がかかる。ペースが上がらず心拍数だけが上がる。軽い痙攣が出たりすれば、すぐに筋肉を緩めなければならない。

声援に背中を押される

しかし、沿道には応援の旗を振る可愛い子どもたちがハイタッチを求めてくる。声援をくれる若者。生演奏してくれるバンドマン。秋の明るい陽光の下、ギリシャ国旗の青と白が波打ち、見ず知らずのランナーにも「パメ！パメ！（行け！行け！）」と熱い鼓舞を送ってくる。「エフカリスト（ありがとう！）」と沿道に言えば「ブラボー！」と返してくれる。力が湧いてき



た。古代から続く42.195kmの終着点を目指す私たちへ、心からの敬意を込めた拍手と喝采が、ゴールへの



勇気を与え続けてくれる。

ゴールまで5km、沿道の熱気も最高潮にドラムバンドのビートと「パメ！」「ラスト！」という叫び声が地響きのように重なり、観衆は身を乗り出して声援を送ってくれる。彼らの声援が、限界を迎えたランナーの足に最後の一步を踏み出す勇気を宿し、ゴールへと押し上げていく。

歓喜のパナシナイコ

歴史の重みを感じさせるパルテノン神殿の麓、白い大理石で作られたゴール、パナシナイコスタジアムが見えてくる。

42.195kmの過酷な旅路。足は鉛のように重い、スタートから続く沿道の歓声が背中を押す。最後の一步を駆け抜けてゴール。半周ほど歩いた先でメダルを渡される。友人の声援が客席から聞こえた。誇らしげにメダルを掲げる。古代と現代が交差する瞬間、このうえない達成感に包まれた。



アテネマラソンレポート、いかがだったでしょうか。

2026年は、日本ギリシャ協会のメンバーにも参加



者を募ります。一緒にアテネを走りましょう。最後に少し当社の宣伝させて下さい。ギリシャ発の自然派寝具ブランドCOCO-MAT（ココマット）。その最大の魅力は、金属やプラスチックを一切使わず、100%天然素材のみを重ねた贅沢な多層構造にあります。天然ラテックス、ココナッツファイバー、海藻、サボテンなど、大自然の恵みが身体のラインに寄り添い、浮いているような優しい寝心地を実現。通気性と耐久性に優れ、使い終えた後は「土に還る」というサステナブルな哲学も、本物志向の方に選ばれる理由です。私が見た中では世界一のベッドです。世界の一流ホテルが認めた至福の眠りを、あなたのご自宅に。全国の店舗で、その圧倒的な心地よさをぜひ体感してください。

